

C-2 新築祝いの献立について

大阪市大家政 白木小三郎
○島田多津子

1. 現在の新潟地域内に残る近世文書にみられる「家」の新・改築時の見舞品（祝品）の内容，あるいは「新立祝」・「棟上祝」の時に出来る献立の内容を紹介して，近世末の庶民生活の一端を窺うこととしたい。

2. 使用した文書は，(1)天保4年10月「佐藤雄四郎家普請諸事控」^{注1}，(2)天保14年正月「家作諸事控但し作替」^{注2}，(3)文久4年2月「土蔵・雑庫・座敷 普請帳」^{注3}，である。(1)は分家の新築時の「新立祝」・「棟上祝」の備物（供物）・献立・職人への祝儀物，(2)は改築時の見舞品および「新立祝」・「棟上祝」の備物（供物）・献立・職人への祝儀物・人足覚，(3)はどのような建物か不明であるが，その時の見舞品・人足覚・諸入用が書かれている。(2)・(3)（見舞品など）の内訳には，祝宴に参加する者が，各自食ぶちを持参したと思われる状態

が表わされている。

新築の「新立祝」・「棟上祝」の献立は共に改築の場合よりも新築の場合、また「新立祝」よりも「棟上祝」の方が盛大である。天保14年の史料には勝手方の記載があるが、これにも「棟上祝」は品数がより多くみられる。しかし、新潟地方における町方の日常の食事は、一汁一菜が一般的であったとされているから、このような祝宴が、かなり盛大な献立であったことがわかる。

注 1. 2. 3. 新潟市山口孝司家文書（宮沢智士氏提供）

参考文献 瀬川清子著「食生活の歴史」、足立勇著「日本食物史概説」原沢東吾著「日本建築生産史」

「日本人のすまい」日本人の生活全集 3
高田市史第1巻 三条市史資料 1